

プログラムオフィサー (PO) セミナー

競争的資金の会計的マネジメントと POの役割

セミナー開催の経緯と各講演の概略

2007年6月27日

科学技術振興機構

主監 (プログラムディレクター) 高橋 宏

POセミナーの位置づけ

本POセミナーは、内閣府、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、情報通信研究機構、国際交流基金（日米センター）、日本学術振興会、医薬基盤研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、新エネルギー・産業技術総合開発機構、鉄道建設・運輸施設整備支援機構、国際環境研究協会、のご後援を頂いて、All JAPANの位置づけで開催させて頂いております。

ただいま、総合科学技術会議よりご挨拶を頂きました。ここで、本日のPOセミナー開催の経緯とプログラムのご案内をさせていただきます。

セミナー開催の経緯と各講演の概略 (ご紹介する内容)

- ▶ POセミナーのこれまでの経緯と概要
- ▶ 次回のPOセミナーの考え方
- ▶ 本日のプログラム設定の背景
- ▶ 本日のプログラムと講演者の紹介
- ▶ 本日の講演の概要紹介と予備知識

プログラムオフィサー(PO)セミナー開催経緯と今後の予定

➤PO国内セミナー

1. 2004.9.21----米NSF(3人)、英Research Council(1人)の4人のPO講演
2. 2005.1.20----独(DFG:Deutsche Forschungsgemeinschaft)とNIHのPO講演、及びNIHでのPO研修生3人の報告など
3. 2005.3.1----加(NSERC:Natural Science and Engineering Research Council)、豪(Australian Research Council)のPO講演、政策科学研究所の報告など

➤All Japan のPOセミナー

1. 2006.3.14-----NSF,NIH,USDA調査報告、NEDOのPO制度、JSTのPO制度調査研究報告など
2. 2006.10.31-----「テーマ:我が国に最適なPO制度を求め」:海外PO制度調査報告、JSPSのPO制度、MEXT調査報告など
3. 2007.3.1-----「テーマ:研究開発評価とPOの役割」
内閣府、JST、NEDO、産総研の研究開発評価など
4. 2007.6.27-----「テーマ:競争的資金の会計的マネジメントとPOの役割」
5. 次回2007年秋～冬-----どのような内容にするかアンケート調査及び関係者のご意見を聞いて決めたい

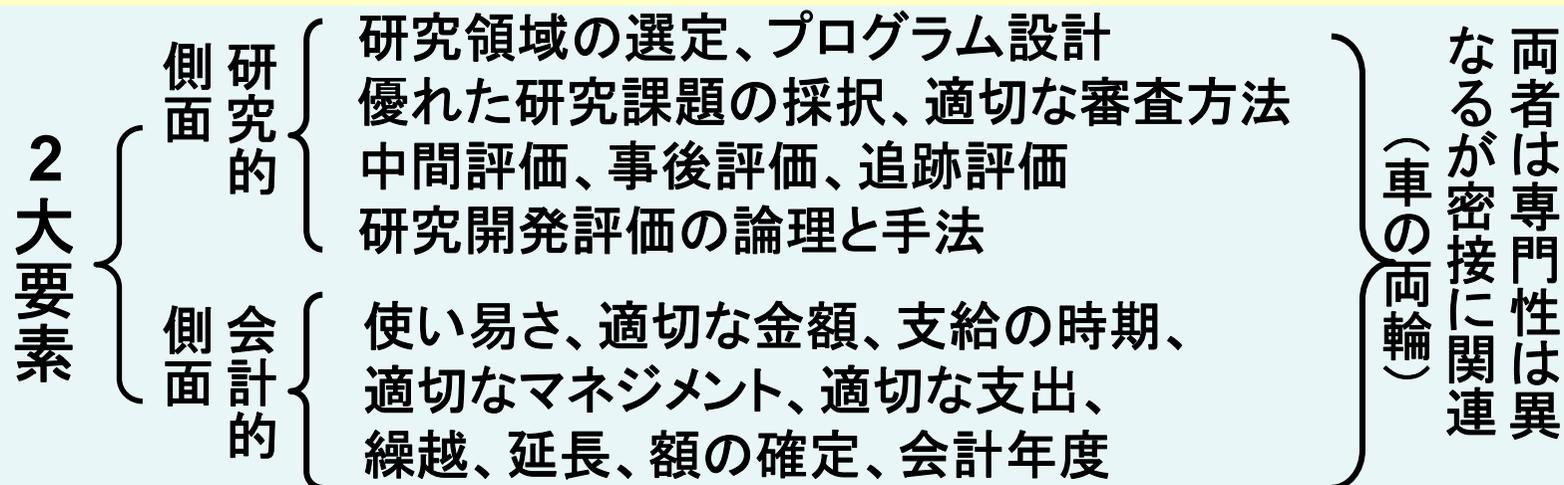
次回(今年秋～冬)のPOセミナーの考え方

- ▶ 我が国にPO制度が導入されて4～5年が経過。
- ▶ これまでのPOセミナーはPO制度とその業務をジェネラルに紹介する趣旨でプログラムを設定。
- ▶ 前回(3月1日)の「研究開発評価とPOの役割」、本日の「競争的資金の会計的マネジメントとPOの役割」もテーマはスペシフィック、プログラムはジェネラル。
- ▶ 前回のPOセミナーのアンケート:もっとテーマを掘り下げた「講習会的」セミナーを希望する声も少なくない。
- ▶ ファンディング(競争的資金配分)業務は奥行きが深く、POの役割も専門性が高い。
- ▶ そこで、もう少し専門性を高めたPOセミナーにする考え方もある。
- ▶ 一方、我が国PO制度は、この4～5年の間にも人材の交代が激しくPO制度の知識と経験が蓄積され難い側面があり、今なおジェネラルなプログラムのPOセミナーの必要性も高い。
- ▶ 今後は、ジェネラルコースと専門コースの二本立てのPOセミナーも必要かも知れない。
- ▶ アンケート、また関係者のご意見によって判断したい。

ファンディングの2大要素

(本日のプログラム設定の背景)

- ▶ ファンディングは適切な研究領域を定め、優れた研究者による優れた研究に適切な研究費を支給し、優れた研究成果を生み出す支援をするのが目的。
- ▶ 近年、科学技術の高度化により最先端の研究遂行に必要な研究費の額も大きくなっている。



競争的資金のマネジメントに関わる研究者の負担を軽減する仕組み、また研究費を使い易くし、結果として税金の有効性を高める制度改革が必要。

競争的研究資金マネジメントの大きな変革

- ▶ 本年2月、文部科学省は「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」を提示。
- ▶ 今後、我が国の競争的資金は、研究機関(大学当局)を通じて研究者に支給する形態が一般的となる。
- ▶ この形態は従来より米国においては実施されており、米国の大学の事務部門(Administration)には、競争的資金をマネジメントする組織と機能が充実している。
- ▶ 米国も長年の試行錯誤の結果、今日の仕組みを作り上げてきたものであり、その実態を知ることは、参考になると思われる。
- ▶ 米国において、繰越(carry over)や、研究期間の延長(no cost extension)の許認可など会計的側面にもPOは重要な役割を果たしている。

本日のPOセミナーのプログラム構成と各講演者の講演概要 及び講演者の紹介

- 本庶 祐（総合科学技術会議議員）
開会の挨拶、「競争的研究資金マネジメント改善に向けた総合科学技術
会議の取り組みについて」
- 小間 篤（科学技術振興機構 研究主監）
「科学技術振興機構のプログラム調整室新設と役割」
- 吉川 晃（文部科学省 科学技術・学術政策局 科学技術・学術総括官）
「競争的資金の適正な管理と制度改善へ向けた文部科学省の取組み
について」
- 中川 真（財務省主計局 主計官 文部科学係担当）
「研究開発予算の会計的な管理について」
- 昼休み

本日のPOセミナーのプログラム構成と各講演者の講演概要 及び講演者の紹介（続き 1）

- **Dr. Mary Ellen Sheridan (Associate Vice President for Research
Director, University Research Administration,
The University of Chicago)**

「シカゴ大学(私立)における競争的資金マネジメント」

(Role of the Research Administration Office at the Univ. of Chicago)

紹介

2000-現在 現職

1994-2000 Assistant Vice President for Research

1992-1994 Senior Manager, David M. Griffith & Associate

**1989-1991 Acting Associate Vice President for Research, The
Ohio State University, and Vice President for
Administration, The Ohio State Univ. Research Foundation**

1974-1988 Associate Vice Provost for Research, Binghamton Univ.

**・Outstanding Achievement in University Research Administration,
National Council of University Research Administrator(NCURA),2006**

・1986-1987 President of NCURA

本日のPOセミナーのプログラム構成と各講演者の講演概要 及び講演者の紹介（続き 2）

**Ms. Anne S. Geronimo (Director, Research Development,
Office of Research Administration and Advancement,
The University of Maryland)**

「メリーランド大学(州立)における競争的資金マネジメント」

(Role of the Office of Research Administration at The Univ. of Maryland)

紹介

最近 Director, Research Developmentに就任

**1999-最近 Associate Director, Office of Research Administration and
Advancement**

1995-1999 Assistant Director, same as above

1989-1995 Manager, same as above

1985-1989 Contract Administrator, same as above

1982-1985 Co-Principal Investigator, Southern Illinois University

**-1978 Project Development Specialist, Office of Sponsored
Program, Southern Illinois University**

**1975-現在 Member of National Council of University Research
Administrator (NCURA)**

**本日のPOセミナーのプログラム構成と各講演者の講演概要
及び講演者の紹介（続き 3）**

Dr. Larry Weber (Head, Director, NSF Tokyo Regional Office)
「NSFにおける競争的資金マネジメントの会計的側面」
(NSF grant management focusing on accounting aspect)

紹介

2006-現在 Head, NSF Tokyo Regional Office

**1999-2000 Fellow, White House Office of Science and Technology
Policy**

**1991-1996 Head, Director, NSF Tokyo Regional Office
Deputy Office Director, Program Coordinator, Program Manager
in Office of International Science and Engineering**

1987- Joined NSF

Ph. D : Biological Oceanography, Texas a & M University

B.S. : Brigham Young University Hawaii

本日のPOセミナーのプログラム構成と各講演者の講演概要
及び講演者の紹介（続き 4）

伊賀健一 日本学術振興会 理事

閉会のご挨拶「日本学術振興会における科学研究費のマネジメント」

National Council of University Research Administrators (NCURA) <http://www.ncura.edu/>

An organization of individuals involved in the administration of sponsored programs at colleges, universities and teaching hospitals.

Core Purpose and Mission

NCURA serves its members and advances the field of research administration through education and professional development programs, the sharing of knowledge and experience, and by fostering a professional, collegial, and respected community.

大学の事務部門において、競争的資金のマネジメントに携わる人材を、**University Research Administrator** と呼び、その人達の協議会(評議会)。講習会(研究会)を適宜開催するなど情報交換とAdministratorの人材育成を計っている。

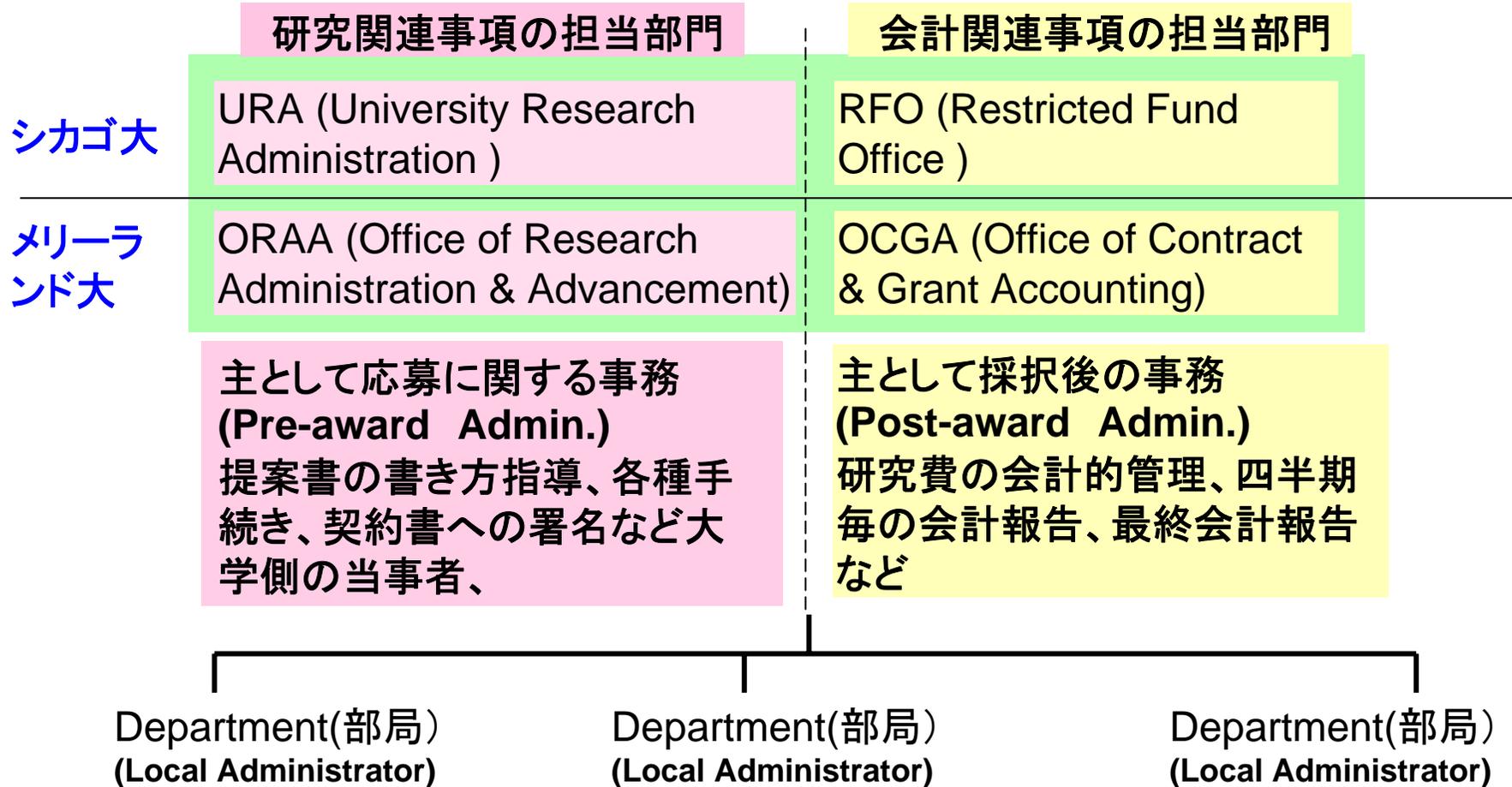
National Council of University Research Administrators
NCURA の最近の行事 (NCURAのHPより)

<http://www.ncura.edu/meetings/>

- **8 Week Online Tutorial: A primer on Federal Contracting
(Open Enrollment Periods Now Available Through the Fall)**
- **June 12, NCURA TV/Broadcast Workshop Series
(Conflict of Interest :How to Spot and Manage It)**
- **June 20-22 Financial Research Administration Workshop**
- **June 21 OMB Circular A-133 : The Basic Steps of Subrecipient Monitoring**
- **June 25-27 Fundamentals of Sponsored Project Administration**
- **June 25-27 Sponsored Project Administration : Level II**
- **June 27 Export Control Considerations at the Proposal Stage**
- **June 27 NCURA REGION I - RADG MEETING-Grants.gov**
- **July 12-14 Pre-Award Research Administration (PRA) II**

Univ. of Chicago, Univ. of Maryland の競争的資金 (Sponsored Projects) マネジメント組織

大学本部内に下記の両組織



本日の講演者は二人とも左側の組織の人、但し、会計面にも言及

両大学の本部の競争的資金マネジメント

- ▶ 両大学の本部組織における競争的資金マネジメントは類似であり、恐らく、米国の多くの大学において、組織・機能は類似と思われる。
- ▶ 米国でAwardee(競争的資金獲得者)は大学を指し、研究者ではない。大学が契約者であり、責任を持つ。研究者が他の大学に移った場合、Awardeeとしての大学は急遽同分野の研究者を採用してでも、受託研究を実施し、完遂する。(大学が望めば、研究者の異動先に移管することは可能)。
- ▶ 提案書類は、各部局の部局責任者の承認を得て、本部組織に回され、本部組織からFunding Agencyに送付(申請)される。
- ▶ 本部組織は各部局のLocal Administratorの教育・訓練も実施する。
- ▶ 研究者が予算を使い過ぎた場合、その研究者の他の資金で埋め合わせるか、あるいは、部局の予算を充当する。(会計管理責任は部局にある)。
- ▶ Sponsored ProjectsにはFunding Agencyからの資金だけではなく、企業との委託研究、共同研究も含まれる。
- ▶ 米国のContractは日本の委託研究より、目的達成指向が強く、枠組みもrigidであり、基礎研究指向の日本の委託研究とは一概に比較対照できない。

日米の競争的資金制度を比較対照する場合の注意点

- **Award Year**の概念の有無
- 日本と米国の国家会計制度の根本的相違
- 日本の競争的資金分類: 補助金、委託費、
運営費交付金（委託研究）
- 米国のFund分類: Grant、Cooperative Agreement、
Contract

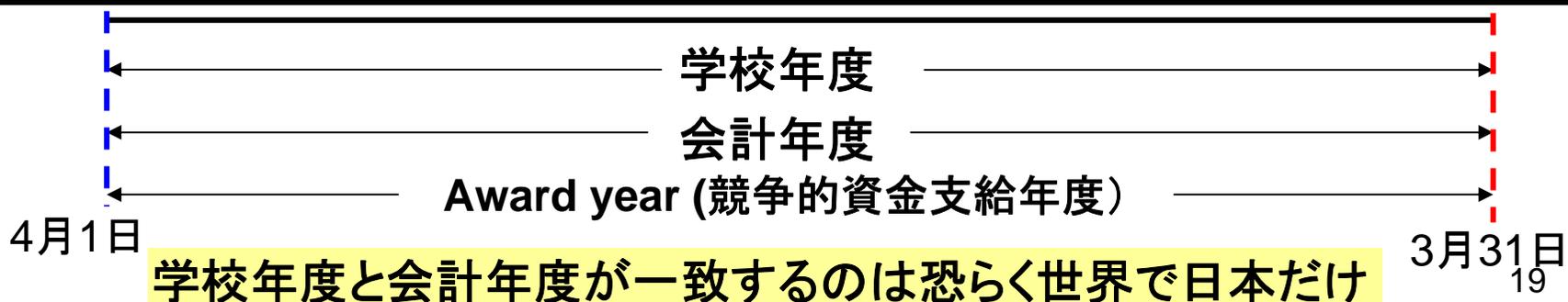
年度について

- 暦年 (Calendar year) に対し、会計年度 (Fiscal year)、学校年度 (School year = Academic year)、Award year (研究年度あるいは競争的資金支給年度) がある。
- Award year は米国において、Grant (補助金) 支給が開始された時からの1年間を呼び、Grant 支給開始※は、Fiscal year ととも Calendar year ととも無関係に設定される。即ち、Award year は会計年度を跨いで設定され、Grant は Award year で管理される。
- なお、我が国は、Award year は会計年度 (4月～3月) と一致させているとも言えるし、我が国に Award year の概念は無いともいえる。

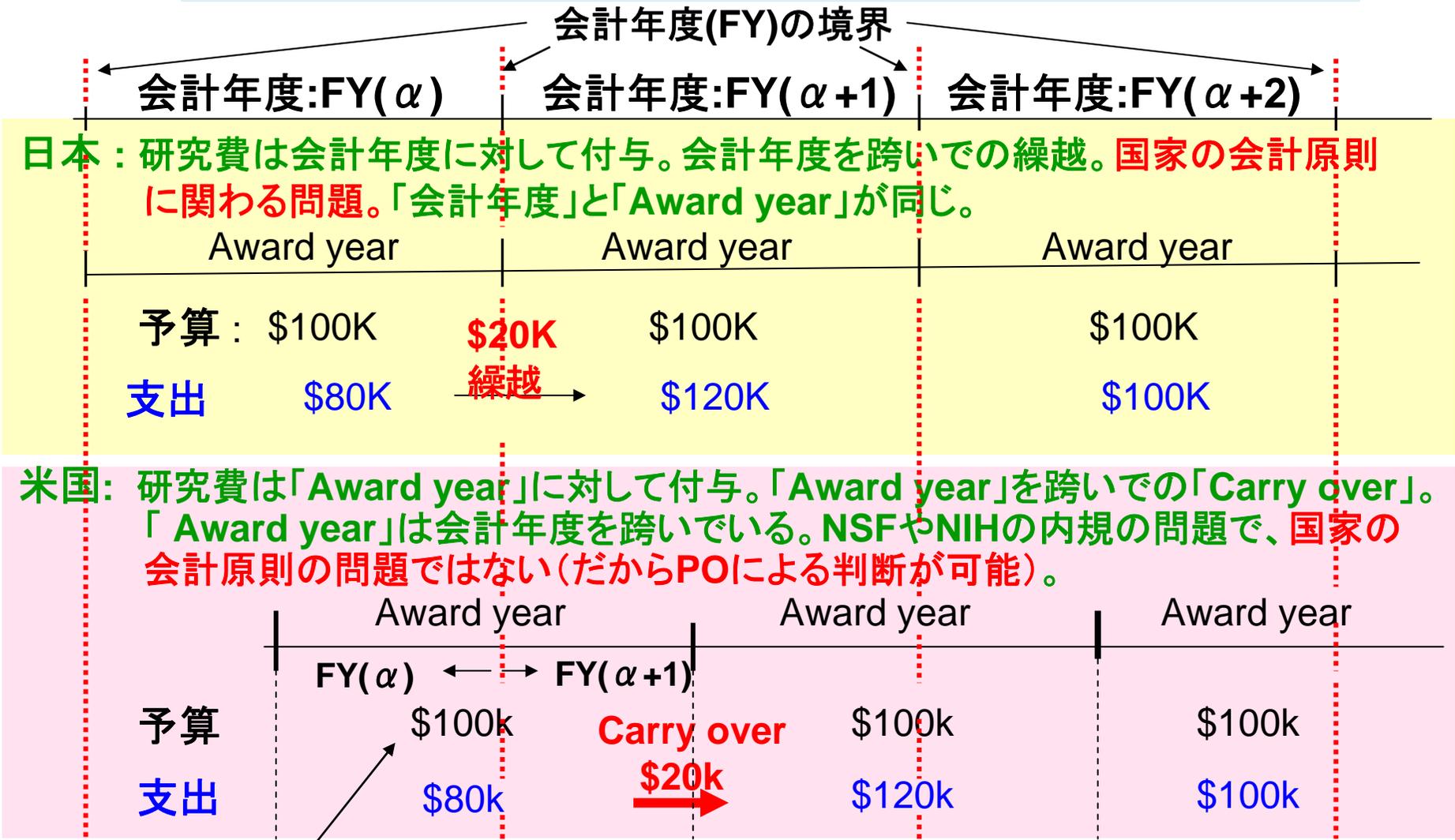
※ Awardee (採択課題研究者) は Grant 支給開始 (研究開始) 時期を、PO と相談し、採択決定から数ヶ月先に延ばすことができる。

学校年度 (School year) と会計年度 (Fiscal year)

学校年度 (School year)		会計年度 (Fiscal year)	
4月～3月	日本、インドネシア、ペルー、	4月～3月	日本、英国、カナダ、インド、パキスタン、デンマーク、シンガポール、
9月～8月	米国、英国、仏、独、カナダ、中国、イタリア、オランダ、香港、台湾、サウジアラビア、	10月～9月	米国、ミャンマー、ハイチ、
1月～12月	シンガポール	1月～12月	独、仏、イタリア、中国、韓国、台湾、オランダ、ベルギー、スイス、インドネシア、ペルー、ロシア、タイ
3月～2月	韓国、アルゼンチン、アフガニスタン、	7月～6月	オーストラリア、ノルウェー、スウェーデン、ギリシャ、フィリピン、パキスタン、



日本の「繰越」と米国の「carry over」の相違



この\$100kをFY(α)で全て使うのも、FY($\alpha+1$)で全て使うのも自由。即ち、日本的な意味(会計年度間)の繰越は100%自由。

Federal Demonstration Partnership (FDP)

<http://thefdp.org/>

http://www.nsf.gov/awards/managing/fed_dem_part.jsp

The FDP is a cooperative initiative among 10 federal agencies and 98 institutional recipients of federal funds; its purpose is reduce the administrative burdens associated with research grants and contracts.

Phase I 1986-1988、 Phase II 1988-1996、 Phase III 1996-2002、
Phase IV 2002-2008

Highlights of Phase I and II

- Implemented mostly commons, streamlined terms and conditions for research grants
- Increased budget flexibility
- No cost time extensions
- Pre-award costs
- Carry-forward across continuation years
- Technical progress reports/minimal continuation proposals
- Revised OMB A-110

競争的研究資金に関し、その制度的負荷を軽減するために10のFunding Agencyと98の大学がFDPの枠組みの下に協力して、1986年以来、Phase I、II、III、IV と期間とテーマを定めて組織的、体系的に取り組んでいる。

まとめ

- ▶ 競争的資金配分(ファンディング)業務には、研究に関わる側面と、会計に関わる側面があり、いずれも車の両輪のごとく重要。
- ▶ 研究的側面はPO制度導入依頼着実に改善が進められている。会計的側面も、繰越明許条件の大幅な緩和など改善が進められており、文部科学省からのガイドライン、また総合科学技術会議の研究資金WGなどを契機として、こうした動きを加速する状況。
- ▶ 会計的側面の改善も、研究経験のあるPOサイドからの情報発信は重要であり、本日のPOセミナーが少しでもお役に立つことを願っている。